

# 久良岐便り

第72号



新緑の春も過ぎ、梅雨明けはまだなのに真夏日のような天気が続いています。  
6月30日に久良岐母子福祉会館屋上では、プール開きが行われ、水飛沫が  
強い日差しに輝いていました。

2023年の暑い夏は、まもなく本番を迎えます。

社会福祉法人  
久良岐母子福祉会

〒232-0063

横浜市南区中里3-23-1

☎ 045-731-5994

fax 045-721-3166

<http://www.kuraki-boshi.or.jp/>

# 久良岐母子福祉会の役員改選



令和5年6月9日。

横浜バイシェラトンホテルにて久良岐母子福祉会 定時評議員会が開催されました。2022年度の事業報告・決算報告が承認され、今年は理事・監事の任期満了の年で改選となり再任5名、新任1名の6名が可決承認されました。

理事・監事の任期は2年。

新任を1名迎え、久良岐母子福祉会は、また新たな一歩を進み始めます。

役職	役員氏名	職業・勤務先・役職
理事長	長井 晶子	久良岐乳児院院長
常務理事	鈴木 八朗	くらき永田保育園園長
理事	成田 信子	母子生活支援施設くらき施設長兼こども家庭支援センターくらきセンター長
理事	浅木 克眞	横浜みなとみらい税理士法人 代表社員
理事	摩尼 昌子	社会福祉法人唐池学園 理事
理事	佐藤 匡史	バックオフィス総研コンサルティング 合同会社 代表社員

役職	役員氏名	職業・勤務先・役職
監事	岡 章太郎	社会福祉法人恩賜財団神奈川県 同胞援護会 会長 社会福祉法人芳浄会別所保育園 理事長兼園長
監事	鶴飼 一晴	社会福祉法人唐池学園 理事長

# 新人職員研修 2023

令和5年6月17日(土) 久良岐母子福祉会館 研修室

『自己覚知、自己開示、福祉施設の報・連・相』

人材育成委員:奥山(記)

入職してから2ヵ月ぶりに4施設の新任職員が集まりました。始めは緊張した面持ちでしたが、人材育成委員会の「楽しくリラックスして研修をしよう」をモットーに当日は“ファッションで自分を表現したら”と題して、自身の服装から自分らしさを伝える自己紹介をして和やかに始まりました。



研修のテーマは、午前は「自己覚知、自己開示」、午後は「福祉施設の報・連・相」です。

4名ずつ3グループに分かれてグループワークを取り入れながら、研修を行いました。

午前は、“オリジナル名刺”、“人生の折れ線グラフ”を個人で作成し、グループ内で発表、共有しました。発表のあとには必ずグループのメンバーからフィードバックをする時間を設け、感想を伝えていきます。自分では欠点に思えることも他の人から見れば肯定的に感じられることもあり、見方を変えると強みや長所になるなど、フィードバックを通して新たな視点や自分への気づきにつながったようでした。

午後は「報・連・相の説明」「傾聴のトレーニング」を行いました。

人にはそれぞれコミュニケーションパターンがあり、自分自身と相手がどんなタイプなのかを理解することで、報連相を円滑にし、効果的なコミュニケーションを取ることができると学びました。また、傾聴のトレーニングでは、3人一組となり話し役、聴き役、観察者になり交代しながら実践しました。聴く側は敢えて、目線を合わさず、相槌をしないという手段も行いました。話し手は聞き手の表情、目線、共感、頷き一つで話しやすさが変わることを体験し、同時に話しやすい聞き手とはどうすると良いのか実践を通して学べたと思います。



これらのことを日々の中で意識しながら、子どもや利用者、職員同士の関わりに活かしていってほしいです。

最後には、12月までの目標を考えてもらい、達成可能でできることを具体的に掲げました。今年度久良岐母子福祉会で出会えたこのメンバー。それぞれの施設の中で業務が進み始めた頃でもあります。

一人ひとり施設や役職は違うけれど同期という仲間がいること、一緒に不安や課題を共感したりできることで、仕事への活力にしていきたいと考えます。

## 緑とお花でいっぱいの公園に

## 地域より

中里第三公園愛護会の皆さんと保育園年長園児が近隣の公園にお花を植えました。お花の苗は春に種をまいて、これまで育ててきたものです。今日も愛護会の方に苗の扱いについて教わり、ひとつひとつ植えていきました。お花も生きていて毎日大きくなっていますから、人の生活と同じようにお日さまの光りを浴び、水をもらって、誰かにみてもらって花を咲かせます。この公園では、近くに住んでいらっしゃる愛護会の方が日々の水やりをしてくれています。ありがとうございます。



地域の方とお仕事の最後は必ずあいさつと「タッチ」をします。この頃、小さい子どもを見かけるとその手にあるのはスマホで、しかもこんなに小さい時から扱っても上級者。

一方、地域の方とのタッチは、こどもの家族の手のひらとも違う様々な手触りのぬくもりとの出会いです。目の前にあるのは、ゴツゴツした大きな手のひらだったり、ふくよかなまあるい手のひらだったり、そこにある手のひらは家族以外の人との関わりの印しです。時代のキーワードは「多様性」です。多様性の始まりにスマホを置いて、人とタッチを試みませんか？ 人の手のひらから何かを感じられたら、きっと多様なものも受け入れられ、人の和も広がっていくのかもしれないね。

R. Uchida (記)

# 施設からのお便り

久良岐保育園

久良岐乳児院

母子生活支援施設 くらき

くらき永田保育園

想いを込めて・・・

米作りに挑戦！！



## ほっかほっか会で

## バケツ稲を育てよう！

お米作りは全員初心者。自分たちなりに勉強をし、地域の方にアドバイスを頂きながら田植えの準備を進めてきました。迎えた当日は「誰も来なかったらどうしよう」と思うほどの大雨。そこへ来てくれた地域の方と一緒に土作りからスタート。「美味しくなるといいね」と会話を楽しみながら無事に稲を植えることが出来ました。



後日・・・

園庭に遊びに来てくれた地域のお友だちがバケツ稲を囲み「これ何か知ってる？」「お米になるのかな～！？」と会話をしていました。

わたしたちの米づくりは始まったばかり。これから育っていく稲を、久良岐に遊びに来た方たちと成長を見守りながら大切に育てていきたいと思います。



久良岐の前を通ると「あじさいの道があるね」と、地域の方々が立ち止まり、ホッと一息ついて休憩できる。そんな場所になるようにという思いで始まったあじさいロードプロジェクト。地域の方に頂いたあじさいを挿し木にし『きれいに咲きますように』と願いながら育ててきました。そして、2年の月日を経て花が咲き久良岐の玄関を彩っています！早速、地域の方から「綺麗にたくさん咲いているね」と言っていただきました。



昨年からはじめた『ほっかほっか会』。大きな園庭でたっぷり遊んだ後は、毎回私たちがつくる美味しく・心が温まるおむすびをお届けしています。ですが・・・

もっと地域の方と繋がっていききたい！  
心と心を結んでいききたい！

と考え、バケツでお米作りに挑戦中です。地域の方と一緒に育てた稲で作ったおむすびをみんなで食べられますように。

# 乳児院と係わる地域の声... vol.1

昨年度、乳児院は広報紙を通じて、広く長い地域とのかかわり、支援について、様々な視点からご紹介させていただきました。  
 では、実際に乳児院に関わってくれている地域の人たちは、どのような思いをもって、関わってくれているのでしょうか？  
 今年度は、そんな地域の人々の“声”を聴き、その“想い”を伝えていきます。

本年度、4年ぶりにこどもの日の招待行事を開催させていただきました。コロナ渦までは、毎年こどもの日に退所児が集まり、職員が作るバーベキューに舌鼓を打ちつつ、100名を超える参加者が交流を楽しんでいました。

## ～退所児の想い～

久しぶりに開催されたこの行事に、「お手伝いしたいです！」と声をあげてくれた退所児がいました。20年以上前に退所し、すっかり青年に成長した彼の“想い”を、今回はお届けします。

## 久良岐の思い出って？

正直エピソードで覚えていることはないのですが、「木のおうちは覚えてる」と。プレイルームの一角に秘密基地のごとく存在した「木のおうち」。

おうちの中から見えた景色、してかした？イタズラの数々。。。子ども達にとっては、楽しかった思い出しかないようです。



もっとも、職員にとっては、ここで繰り広げられた子ども達のイタズラに、散々泣かされた苦い思い出しかないのですが。。。



## 担当職員ってどんな存在？

退所してからも、ずっと寄り添い、見守り続けてくれた担当職員の存在は、なかなか一言では表現し切れないとのことですが、強いて言うならば、

「(口うるさい!?) お母さんのような存在」  
 だそうです。。。絶妙な一言だと思います。。。

20年以上前の誕生日プレゼントにもらった担当の手作りカバン、「いまも持ってるよ」と、少し照れながら話す姿に、担当職員との絆の深さを垣間見た気がしました。

## 久良岐ってどんな存在？

多くの退所児にとって、人生のスタート地点とも言える乳児院。なかなか言葉にするのは、難しい。。。と言葉に詰まってしまいました。

来年もお手伝いしてくれる？との問いかけに、「他に予定なかったら」と、クールな答えが返ってきました。

しかし、来年も、来年がだめでも再来年に、また楽しい時間を過ごせることでしょう。



いつでも思い立った時に、帰ってこれる場所。話を聞いてくれる場所。

久良岐って、きっとそんな存在なのではないか。彼とのインタビューを終え、そう感じるとともに、大切な場所で従事させて頂いていることに喜びを感じました。

## 招待行事レポート



園庭で水遊び



あの頃の写真  
～アルバム～



みんなで昼食  
～バーベキュー～



# 久良岐乳児院

## 継承

今年度は、乳児院が長く大切に使い続けている物品を紹介していきます。

第1回は、

## 布団

今春、子ども用の敷き布団を全部交換しました。しかしながら、いままで使用していた布団を廃棄することなく、打ち直すことで、再利用していくことになりました。

打ち直しによって、サイズアップ(90cm×160cm)し、職員が子どもに寄り添える大きさになりました。

約30年使用し続けたものを、リニューアルして使い続ける。

乳児院は、物を大切にしたい思いをこのような形で実践しています。

## ビフォー



## アフター



# 「地域との顔と顔の見える関係性に向けて!!」

## 繋げる つながる

くらきではここ数年のコロナの流行を機に、社会全体で失われてしまった顔と顔の見える人との付き合いを地域との関わりを通して取り戻して行く活動を進めています。くらきでは地域へ向けた取り組みを『繋がる・つなげる』、『ひろげる・広がる』、『しる・まなぶ』の3つを挙げ、その取り組みの一つである『繋がる・つなげる』を今回、特集する事にしました!!

今までのお礼と提供されたものが利用者の手に渡り、どのように活用されたのか?を和田さんへお伝え出来ました。



提供者や生産者の思いを少しでも利用者へ伝えて関係を繋ぎ、これからのつながりも育てて行ける様に和田さんへインタビューを行いました。お野菜を育てるうえでの苦労や大変なこと、久良岐と関わる切っ掛けなど、お話を聞く機会を頂きました。

おいしい~!!

アイデア沢山の調理を喜んで食べています♪



### 生産・提供

お野菜を提供してくれている和田さん



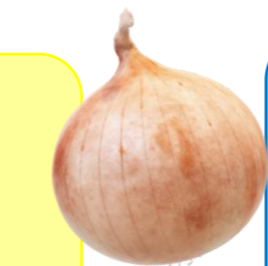
### 届ける

「中里こどもふれあい広場いきいき」の原田さん



### 活かされる

提供された物の活用



### 受け取る

母子生活支援施設利用者



生産者の方から新鮮なまま運んで下さる方にどんな様に野菜が活用されているのか?まごころ新鮮野菜がこども達に、どの様に届いているのか?利用者がどのように野菜を使って料理を行っている?食したのか?許可を頂いて写真の提供の協力をしてもらいました。

和田さんから  玉ねぎが届きました!!



顔と顔の見える関係性を目指して、提供者から利用者に安心して新鮮な野菜が渡り、しっかり活用される事を目的に和田さんの紹介ポスターを掲示しました。

## 母子生活支援施設 くらき

### 和田さんインタビュー



和田さんは某企業に務められ、海外で支社の立ち上げなどに寄与され定年後に横浜市が実施している「市民農業大学講座」を受講後に公園の緑地等ボランティア活動をされ。その後に農業の学び直し。現在、保土ヶ谷区の60~70坪の畑で年間30種類以上のお野菜を育てています。

コロナ感染拡大に伴い「中里こどもふれあい広場いきいき(こども食堂)」への提供が出来なくなってしまっていた所、母子生活支援施設への提供の話が原田さんから頂いたのが切っ掛けとなり、くらきとの関係がスタートしました。





保育園の行事の1つ  
をご紹介します

作る

# 自分たちで楽しむ『こどもの日祝い』



## くらき永田保育園

子ども達が『こどもの日祝い』当日までを盛り上げて、楽しんでいけることを大切にする

子ども時代の経験は  
待ったなし

くらき永田保育園では子ども達の『今』の経験を支援するために職員間の保育への想いの伝え合いを大切にしています。

具体的には

- ★「0歳児から始まる自己決定と意見表明」を表出できるような働きかけを行います。
- ★子どもが納得のいく形で決めていくことを意識しています。
- ★今子どもが何に興味・関心があるかをキャッチし、広げていくことを支援します。私たちも一緒に遊び・探求しています。
- ★『してもらおう行事』から『自らが参画する行事』にしていきます。

こうした日々の保育・子どもたちへの支援に対する私たちの『思い』を、目に見えるカタチにしていこうと思っています。  
今回はそうして行われた「こどもの日祝い」をご紹介します。

保育や行事の様子をお伝えするために、

Instagram  
始めました♪



### リユース

いろいろすいね

こうするんだよ！ せいさくしたい！

さみしそう

色褪せてしまった昨年までの鯉のぼり

げんきない

鯉のぼりパワーアッププロジェクト始動！

えのぐでいろをつけてみたら？



もっとつくりたかった～



(何色も線を描くとにじみたいだよ！)



どうやってやるの？

鱗もリユース



クレヨンだとぬりづらい

パワーアップした新生 鯉のぼり



いろいろまざって きたなくなっちゃった…でもオリジナルだよ！！

鯉のぼりの

### かくれんぼ

40匹の葉っぱ鯉のぼりを探せ！



ここにもあったよ！



おうちでも作ってみてくださいね

自分で作った鯉のぼりをあちこちに『かくれんぼ』させることがブームになりました



おうちで作った鯉のぼりを飾ってくれました



### 乳児さんも参加



2階のテラスに初めて鯉のぼりが出現！

さわってみたい！



ちかくでみたい！



菖蒲の葉を見て…



においをかいでみる



葉っぱも食べようとする子ども！



はっぱをめくってみる

おやつは柏餅♪



ブログやInstagramでも、子どもたちと作り上げて、子どもたちが楽しんでいる姿を発信しています！

## 編集後記



新広報委員での初編集 久良岐便りとなります。施設の特徴を出すように、そして広報委員だけが作るのではなく施設みんなで話し合い、意見をもらい職員からも発刊を待ってもらえるような記事を作ろう！を合言葉に編集会議を進めました。知ってもらおう・見てもらおう・待ってもらおう、そんな読者を増やしていければと七夕飾りに願いを込めました。

各委員と普段お世話になっている読者の皆様に何かお返しができないか？と考えております。

初の試み、次回ご期待ください。

令和5年度 広報委員  
高山 佐藤（久良岐保育園）  
久野 郷間（久良岐乳児院）  
田代（母子生活支援施設くらき）  
寺田（くらき永田保育園）  
広報委員長 嶺岸（法人本部）  
第72号  
令和5年7月13日発行